

「肉ひと筋」で、勝つ。いきなり！ステーキと一瀬邦夫 尾崎弘之氏著書(集英社)出版のお知らせ

株式会社ペッパーフードサービス(本社/東京都墨田区・代表取締役社長 CEO/一瀬邦夫)では、尾崎弘之氏著書により、いきなりステーキと一瀬邦夫を題材とした「肉ひと筋」で勝つ。と題した著書が集英社より8月5日に出版されます。

2013年末にオープンするや、「立ち食い」ステーキというユニークなスタイルで大人気を呼び、わずか3年で売上150億円を超えようという大ヒットとなった『いきなり！ステーキ』チェーン。この『いきなり！ステーキ』と、44か月連続売上前年比超えという絶好調チェーン『ペッパーランチ』などを展開する外食産業の急成長企業・(株)ペッパーフードサービスの創業者が、一瀬邦夫氏である。

「外食産業の奇跡」とも呼ばれる『いきなり！ステーキ』の大成功を実現させた一瀬邦夫氏だが、その経営者人生は危機の連続だった。従業員の集団辞職、BSE騒動での客離れ、思わぬ不祥事、など幾度もの危機を乗り越え、現在の成功を実現した秘訣は何か。一瀬邦夫氏のジェットコースターの経営者人生から導きだされたビジネス・サバイバル哲学を、気鋭の経済評論家が分析し、解き明かす。(集英社コメントより)

■著者略歴

尾崎弘之(おざき・ひろゆき)

神戸大学経営学研究科教授。1960年生まれ。

東京大学法学部卒、ニューヨーク大学大学院スターン・スクール・オブ・ビジネス修了(MBA)、早稲田大学博士後期課程修了。博士(学術)。野村證券、モルガン・スタンレー証券、ゴールドマン・サックス投信執行役員などを経て、2005年、東京工科大学教授。

2015年より現職。専門分野は、ベンチャー企業経営、環境ビジネス、バイオビジネス。環境省「環境成長エンジン研究会」などの政府委員を務める。

著書に、『俺のイタリアンを生んだ男』(IBCパブリッシング社)、

『投資銀行は本当に死んだのか』(日本経済新聞出版)、

『バイオベンチャー経営論』(丸善)などがある。

『みのもんたの朝ズバッ!』(TBS系)、

『ウェークアップ!ぷらす』(読売テレビ)などに出演。

尾崎弘之のホームページ <http://hiroyukiozaki.jp/>



この件に関するお問い合わせ先

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 3-3-2 (株)ペッパーフードサービス

<http://www.pepper-fs.co.jp/>

TEL : 03(6859)9203 FAX : 03(3625)9250 広報担当/川野

kawano@pepper-fs.co.jp

第 8 章	第 7 章	第 6 章	第 5 章	第 4 章	第 3 章	第 2 章	第 1 章
真似できない仕組を作りあげる 「ブレイクスルー」で現状を壊す	第 5 の「危機」—— デフレの終わりと 業界構造の変化	第 4 の「危機」—— 不祥事と食中毒事故を 乗り越える 「過去最大の危機」と「植木理論」 「肉ひと筋」宣言と「助けて下さい」貼り紙 「牛肉アレルギー」に悩んだ牛肉業界	第 3 の「危機」—— BSE 騒動の恐怖 「肉ひと筋」宣言と「助けて下さい」貼り紙 「牛肉アレルギー」に悩んだ牛肉業界	第 2 の「危機」—— 大手資本への対抗と 急ぎすぎた出店 黒船の対抗策「プロの焼き方を再現する」システム FC店の大成功と直営店の大赤字	第 1 の「危機」—— 多店舗化失敗と集団辞職 「すべて俺が責任を取ればいい」という開き直り 何があっても従業員から逃げない	「危機」を切り抜けるサバイバル能力 人は枯れた植木に水をやらない 過去の成功例に学んでもあまり意味がない	セオリーから外れた事業構想、 『いきなり！ステーキ』 役員会で提示された「驚愕の構想」 なぜ「立ち席」と「高級ステーキ」の組合せなのか 成熟産業の奇跡、『いきなり！ステーキ』の秘密 ステーキはいきなり食べたほうが美味しい 「普通だったら店が潰れる」高い食材費率